

平成27年11月6日

保護者のみなさま

豊能町立吉川中学校  
校長 浅井 隆志

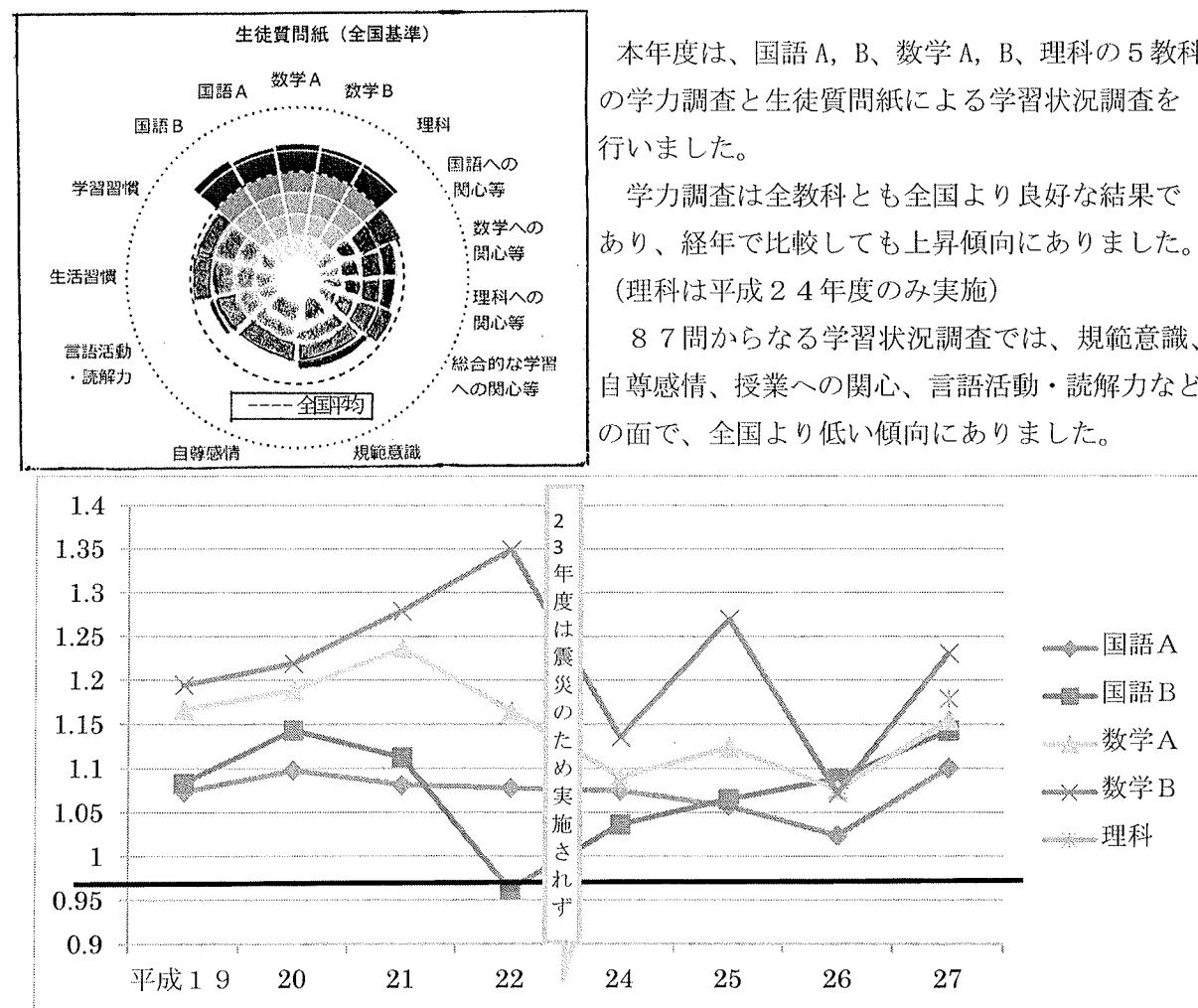
## 平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

晩秋の候、保護者のみなさまには益々ご健勝のこととお喜び申しあげます。

平素は本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、4月21日に実施いたしました全国学力学習状況調査の結果を分析いたしましたので、以下に報告いたします。

記



### (1)国語

〈 正答率が全国と比較してやや下回っている問題 〉

A・手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する。

答 2 相手に敬意を示すため「小山 健 様」は、「松田 洋子」や「十月一日」より高い位置に書く。

〈 考察 〉

国語 A, B の全問題を通じて、この設問以外すべての問題において、本校の正答率が全国の正答率を上回っていました。この問題は学習指導要領では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域に関する問題であり、手紙の様式について問われたものでした。正解を得るには、普段から手紙への関心意欲があるか、日常生活の中で手紙を書く習慣があるかということも大きく関わっています。本校では、職場体験学習において、体験先への感謝の気持ちをお礼状として作成しました。こういった「実学的」な国語の知識を得るには、やはり実際に機会をどれだけ持てるかが鍵となります。学校教育はもとより、実生活の中でもこうした機会を増やしていくことが、改善につながる方法ではないでしょうか。

電子機器によるコミュニケーションが大多数を占める今日、「話すこと・聞くこと」「書くこと」といった表現にかかる能力を育成し、実社会・日常生活に生きる国語力を育成することと、古典も含めてこうした我が国の言語文化に関する領域について、社会や自分との関わりの中で活かしていく國語力を育成することを、学校のみならず生活の中でもめざしていかねばならないと考えます。

### (2)数学

〈 正答率が全国と比較してかなり上回っている問題 〉

- ・正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している。
- ・数量の関係を文字式に表すことができる。
- ・具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることができる。
- ・平行移動した図形をかくことができる。
- ・空間における直線と平面の垂直について理解している。
- ・反比例のグラフが x 軸, y 軸に限りなく近づく 2 つのなめらかな曲線であることを理解している。
- ・平面図形と空間図形を関連付けて事象を考察し、その特徴を的確に捉えることができる。

### 〈 正答率が全国と比較して下回っている問題 〉

- ・事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる。

### 〈 考察 〉

上記は、数学A(主として知識)、数学B(主として活用)について整理したものです。ほとんどの設問について、正答率は全国の平均を上回っており、10ポイント以上上回っている設問は約半数に上がりました。逆に下回っているものは、5%未満で、あまり全国平均と変わりません。

学習指導要領の領域別で見ると、数学A、数学Bの「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」全てにおいて正答率は全国平均を上回っており、数学Aの「数と式」、「図形」、「関数」、数学Bの「図形」、「資料の活用」においては、10ポイント以上上回っていました。

二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることの理解や、事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明すること(関数に関する活用問題)が不得意でした。

また、生徒質問紙の回答結果から、「問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」という質問に関しては肯定的な回答の割合が全国と比較して高かったのに対し、「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」ことに関しては全国平均を下回っていました。ただ単に問題が解ければよいというだけではなく、問題を工夫して解くことの意味や良さを考えていくことがこれから課題であると思われます。

### (3) 理科

#### 〈 正答率が全国と比較してかなり上回っている問題 〉

- ・塩化ナトリウムの化学式を選ぶ。(知識・理解)
- ・溶解度の違いから物質を選ぶ。(活用)
- ・天気図から風力を読み取る。(知識・理解)
- ・雲ができる成因を説明した他の考え方の誤りを改善する。(活用)
- ・音の高さが、空気部分の長さに関係しているという仮説が正しい場合に得られる結果を予想して選ぶ。(活用)
- ・消化酵素によるデンプンの消化の最終物質の選択。(知識)
- ・課題に対して適切な(課題に正対した)考察になるよう修正する。(活用)

### 〈 正答率が全国と比較して下回っている問題 〉

- ・音の波形を比較し、音の高さが高くなった根拠として、正しいものを選ぶ。(活用)

### 〈 考察 〉

全国より上回っている正答率の問題で、「主として知識」と「主として活用」とが同じぐらいでバランスのとれた学力が身についている、と思われます。生徒は授業を大切にし、ノートもしっかりとり、理解を深めようとする姿勢が多くみられます。

全国よりやや下回っている正答率の問題である「音」では、正体のないものとして物理分野の理解がしにくい、と判断しました。しかし、3年生になって「力」を学習し、日々の生活の中にある例を出しながら、学習を進めています。その中で、物理分野の理解もできてきてています。

「生徒質問」でみると、「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある。」と回答した生徒の割合が、全国と比べて大きくなっていて、自然豊かな豊能町の地域性が出ています。

しかし、「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたい。」という回答が、全国と同じく少ないのが、学校教育での改善点であると考えます。目に見える観察から、見えないものを理論的に学んでいく難しさを感じ、あきらめが生じていないか、と反省します。理科の分野が動物から宇宙まで、とても広いことと、その中から希望を持って学んでいってほしい、と願っています。上記のように生徒には、理科の知識とその活用の学力がバランスよくあるので、理科や最近の科学技術の進歩に興味が持てるよう、日々理科の授業の工夫に努めています。

### (4) 学習状況調査

#### 〈 基本的な生活習慣 〉

「毎朝朝食をたべる」「同じくらいの時刻に寝る」「同じくらいの時刻に起きる」などの回答に見られる基本的な生活習慣はほぼ全国と同じくらいの水準であり、全体的には良好な状態にあります。また、「一日にテレビゲーム(携帯電話・スマホ・PC等含)にかける時間」や「携帯電話・スマホでの通話・メール・インターネットにかける時間(ゲーム除く)」「一日当たりのテレビ・ビデオ・DVDの視聴時間」も全国水準より低い傾向にあり、良好な状態であると考えられます。各ご家庭での

丁寧なご指導の積み重ねが感じられます。

しかし少数であっても、朝食を毎日食べる習慣にはなっていない(3.3%)、同じくらいの時刻には寝ていない(22%)、同じくらいの時刻には起きていない(5.1%)、一日当たりのテレビ・ビデオ・DVDの視聴時間が4時間以上(16.1%)、一日にテレビゲーム(携帯電話・スマホ・PC等含)にかける時間が4時間以上(9.3%)、携帯電話・スマホでの通話・メール・インターネットにかける時間が4時間以上(7.6%)、という家庭での生活状況にあるのは大きな課題です。



## 〈自尊感情・規範意識〉



「自分には良いところがある」という設問での「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」という回答は併せて56.7%でした。少し残念な気もしますが、一般的には、自分に対して高い基準で厳しい評価のできる人は否定的な回答をする場合があるようです。

「難しいことでも失敗を恐れず挑戦する」という設問での肯定的な回答は58.5%であり、全国平均よりも10ポイント以上低い水準でした。また、昨年度の57.0%と近い回答率でした。「挑戦する」という言葉に「無謀な」感じを受けたのかもしれません、自分自身の夢や目標を持って、難しそうに思えることでも努力を続けてほしいと願います。

「人の役に立つ人間になりたい」という設問への肯定的な回答は92.8%であり、「人の気持ちのわかる人間になりたい」という設問への肯定的な回答は94.1%でした。

「いじめはどんな理由があっても絶対にだめ」という設問での肯定的な回答は91.5%であり、全国よりもわずかに低い水準でした。また、昨年度の90.4%よりわずかな上昇がありました。

吉中生全員が『いじめ』られる側にも原因がある」という考え方からは脱却して、吉中から「いじめ」がなくなるよう協力していく必要があります。

## 〈社会に対する興味・関心〉

「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」という設問での肯定的な回答は60.2%であり、全国平均よりも4.3ポイント、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えますか」という設問での肯定的な回答は35.6%で、全国平均よりも2.7ポイント、「新聞を読んでいますか」という設問に対し、「ほぼ毎日読んでいる」と「週に1~3回程度読んでいる」と併せた回答は23.7%で、全国平均よりも4.9ポイント、それぞれ高い傾向にあり、吉中生の社会への関心の高さが伺えます。

## 〈家庭での学習〉

「家で自分で計画を立てて勉強している」での肯定的な回答(47.5%)、「家で学校の宿題をしている」での肯定的な回答(87.3%)は全国平均よりわずかに低く、「家で授業の予習をしている」での肯定的な回答は45.8%で、全国平均より10.5ポイント高い水準でした。

「読書が好き」での肯定的な回答は76.3%で、全国平均より8.4ポイント高い傾向がありました。



## 〈今後の学校での取り組み〉

今回の学力調査では、どの教科も全国との比較では良好な結果であり、吉中生が真面目に努力して学習に取り組んでいる姿がうかがえました。

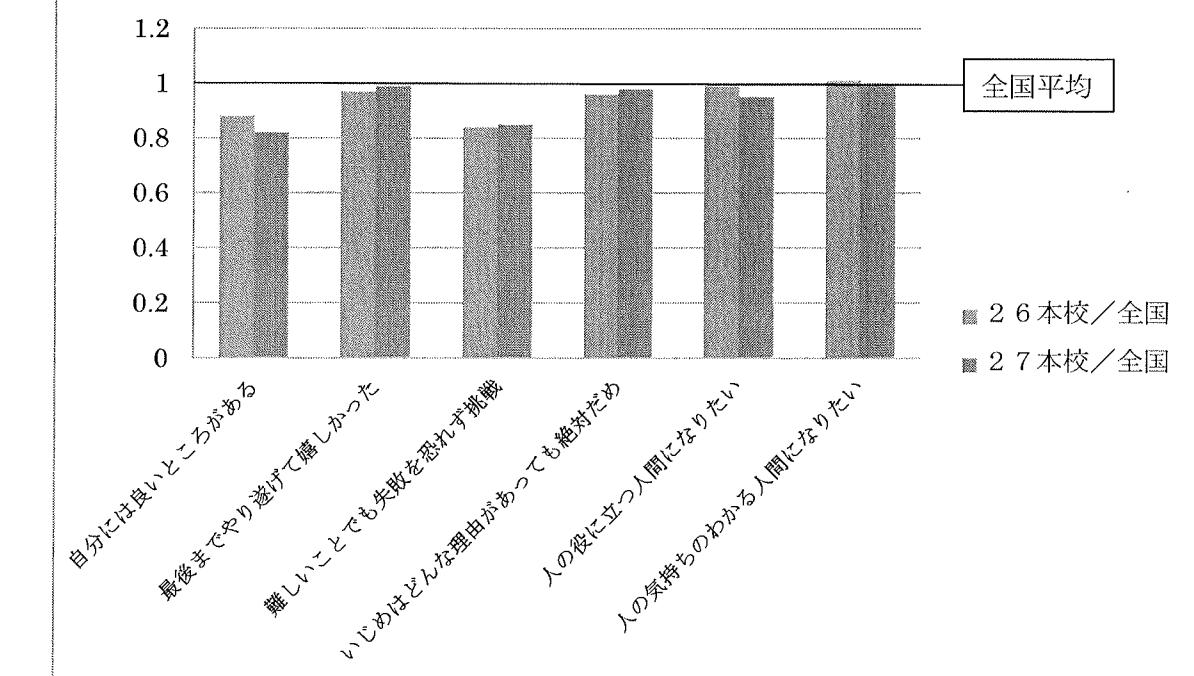
しかし、全国との比較では、授業への関心は低い傾向にあり、授業に臨む意欲も低いことが心配されます。

新しい学習指導要領をふまえ、大阪府教育委員会は、生徒の思考の流れにそって学習過程を構成することを重要視し、次のように授業でのポイントをあげています。

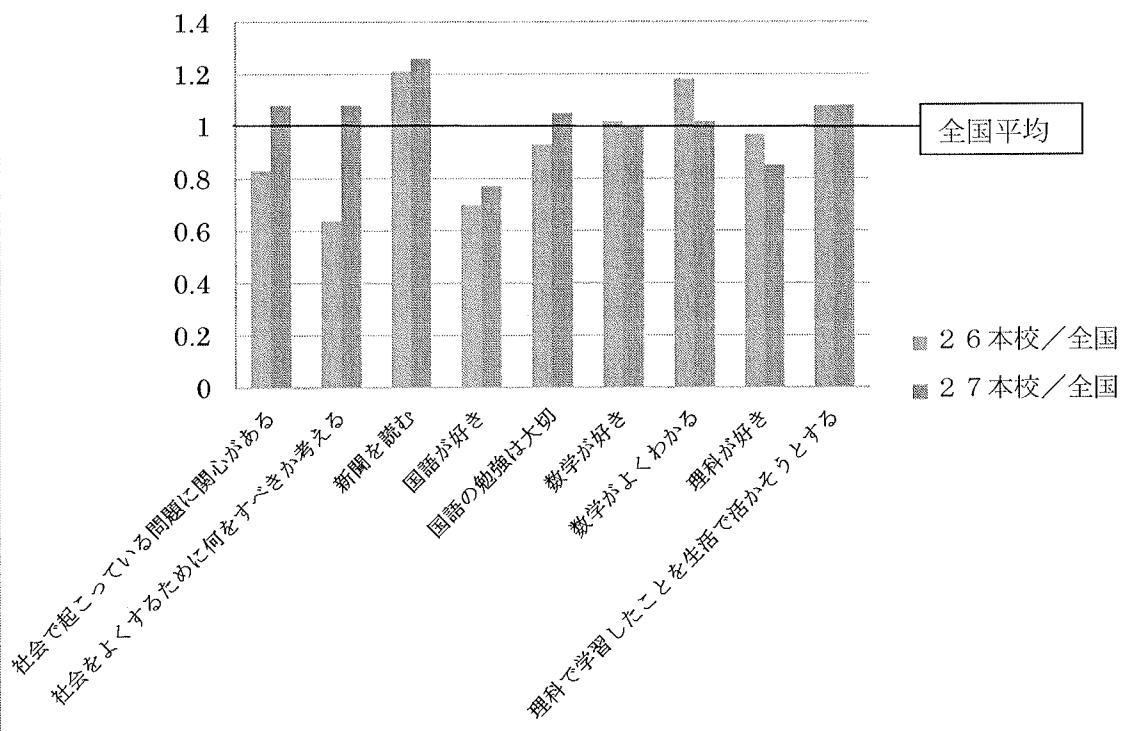
- |          |                        |
|----------|------------------------|
| ①「出合う」   | ～課題を積極的に受け止め、意欲的に向き合う～ |
| ②「結びつける」 | ～既存・既習の知識・技能と結び付ける～    |
| ③「向き合う」  | ～自分の力を頼りに一人で課題に向き合う～   |
| ④「つなげる」  | ～友だちの考えをつなぎ、考えを深める～    |
| ⑤「振り返る」  | ～自己の学びを振り返り、自己評価を行う～   |

今回の調査によって、今までの吉川中学校の取り組みの中で、生徒がしっかりと力をつけていくことの確認はできましたが、今後はよりアクティブに授業に向かうことができるよう、上記5つのポイントを取り入れた授業改革に努めていく必要があります。

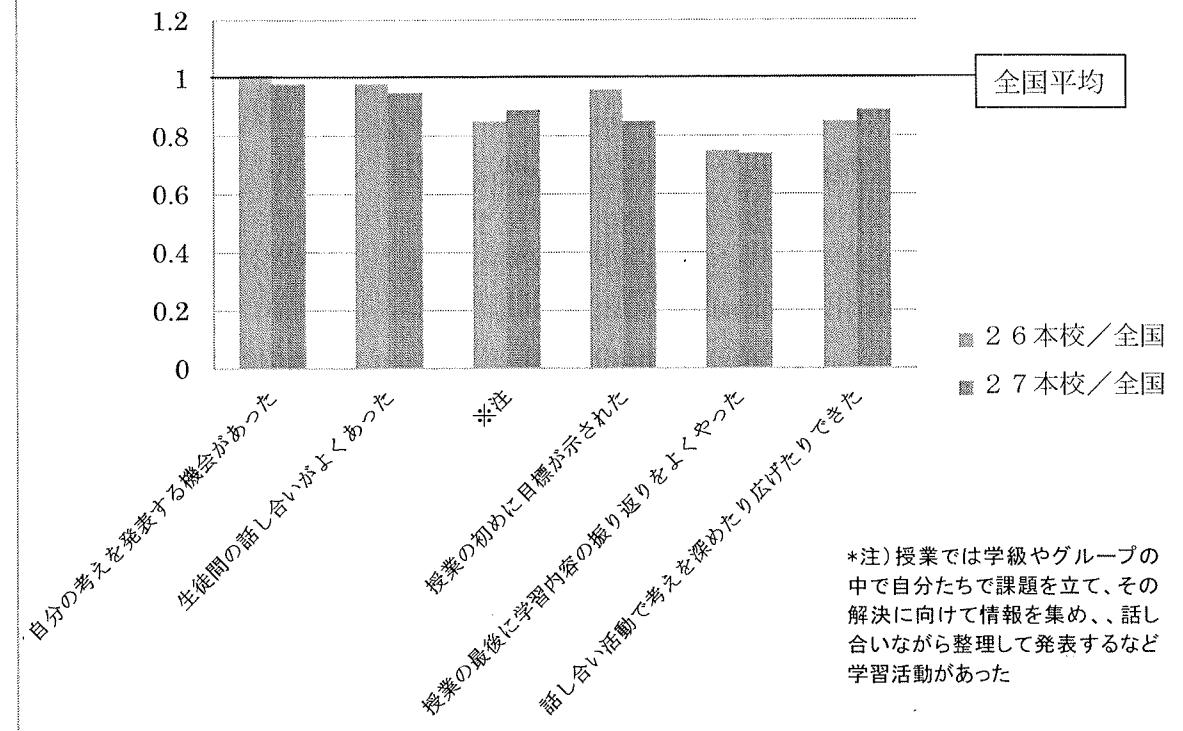
## 自尊感情・規範意識



### 社会に対する興味、関心・授業への関心、意欲

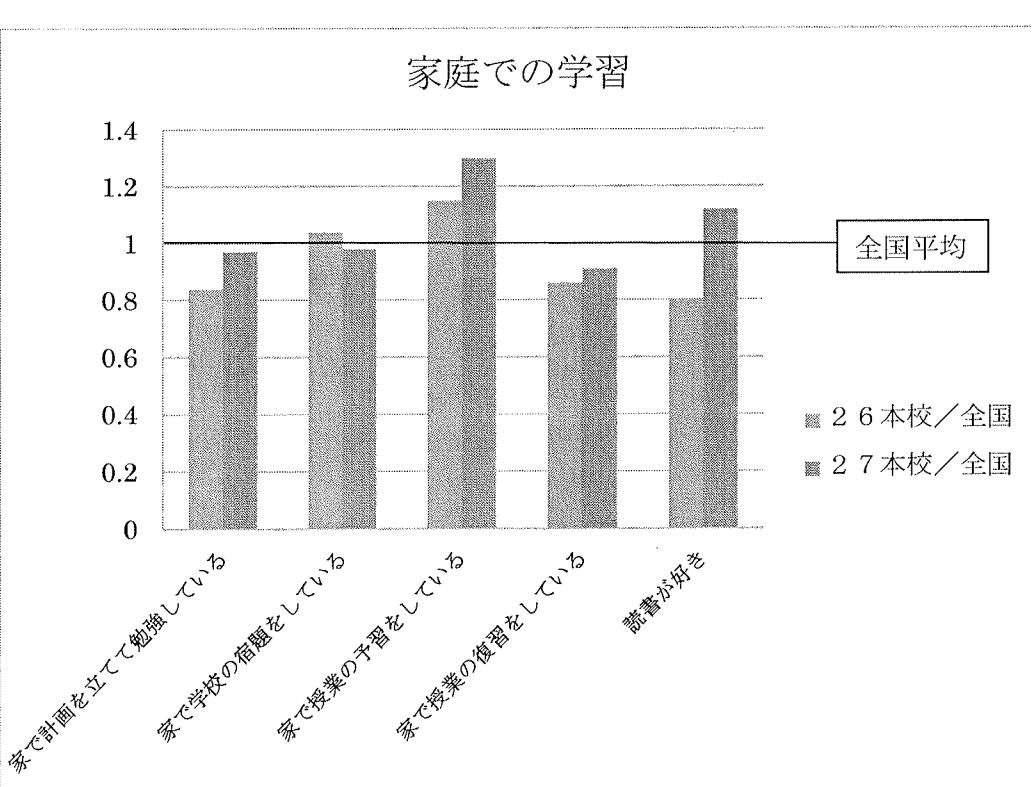


### 授業のスタイル

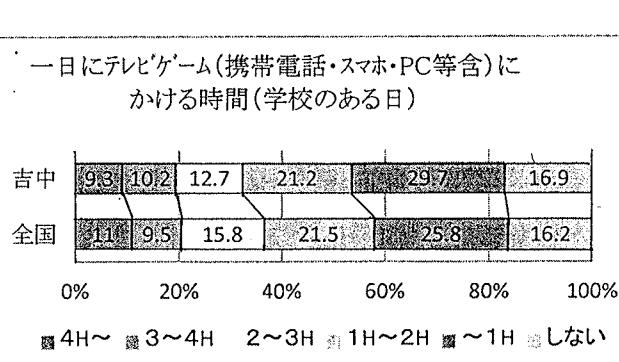


\*注)授業では学級やグループの中で自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなど学習活動があった

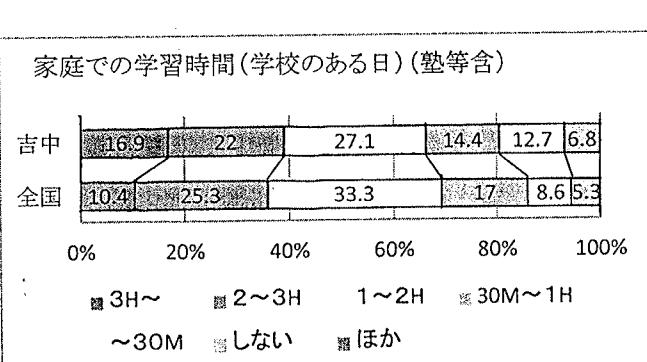
### 家庭での学習



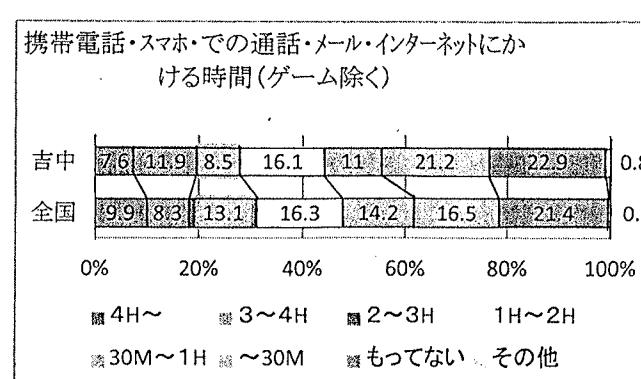
### 一日にテレビゲーム(携帯電話・スマホ・PC等含)にかける時間(学校のある日)



### 家庭での学習時間(学校のある日)(塾等含)



### 携帯電話・スマホでの通話・メール・インターネットにかける時間(ゲーム除く)



### 家庭での学習時間(休みの日)(塾等含)

